

平成 21 年度第 3 回 第 2 期宮前区区民会議 宮前区の宝さがし～ときめき再発見～部会

日 時：平成 21 年 7 月 9 日（木）18：00～20：10

会 場：宮前区役所 1 階地域振興課奥会議室（旧区長室）

参加者：高木部会長、永野委員長、河井委員、鈴木委員、恒川委員、松井委員、渡辺委員

（以上区民会議委員 7 名）

岩佐、成沢、鈴木（以上宮前区役所企画課 3 名）

岩下（株式会社シー・エス・ケイ）

開会

- ・開会あいさつ（岩佐企画課長）
- ・公開の説明
- ・資料確認

議事

（1）具体的な課題解決策について

※事務局から資料 1・資料 2 に沿って説明があり、意見交換した。

松井委員 できあがったカルタやマップをいかに活用し、浸透させるかという事が大変であり、エネルギーがいるところだと思います。関わる団体の知恵が必要です。状況によって、のってくる団体や学校とのってこない団体や学校があると思いますが、現実味のあるまとめ方をしていただき、やれそうな感じは受けています。

高木部会長 資料ではまずカルタを作りながら、それをマップに落としていくというようなまとめ方をされていますが、カルタとは別にマップづくりがあっても良いと思います

松井委員 マップからカルタに発展してくような形もありだと思います。事例として載せていただいた平瀬川流域まちづくり協議会のマップでは、9 月 12 日からまちあるきを始めるのですが、その際にカルタづくりへの呼びかけや、カルタづくりを意識した写真や文章の収集もできると思います。今回作成したマップには水と緑と歴史の資源が入っているのですが、これをベースとして、他の資源や、桜や農地なども取り上げ、新たなレイヤーを加えていくこともできそうです。いろいろな人たちがコースを歩きながら、様々な視点から楽しめるようにしていくケースにしていきたいです。手ごたえは感じています。

渡辺委員 カルタとマップを必ずしも連携させる必要はないと思います。カルタでは、ソフト的なもの、例えば、「ごみのすくないまち」「緑の多いまち」などのキャッチフレーズなども、特定の地域との関連にこだわらずに読み込んでいくことも可能です。

河井委員 今回、宮崎台小学校の総合学習で子どもたちが作成したカルタをお持ちしました。区民会議での検討経緯も話して呼びかけたところ、すぐにやってみていただけました。自由につくってもらったので、両面に絵と字があったり、文字もバラバラで、時間をかけたものではありませんが、緑に関連した札がたくさんできました。

鈴木委員 最終的にきちんとしたカルタにしていくためには、文字やテーマなどをきちんと整理しながら募集していく必要があります。

恒川委員 カルタの場合、文字は 50 音しかありませんから、取り上げる資源の数に上限ができてしま

います。全ての資源を取り上げることができません。最終的なカルタには、選ばれた資源が掲載されることになるのかなと思います。ただ、最初は地域レベルで好き勝手にどんどんいろいろなものを出してもらえたいです。そこから、発表をし、人気投票などして絞っていく。マップについても、1枚の地図に全てを落とすことは無理で、やはりテーマ別にいろいろなマップを考えていく必要があります。

鈴木委員 例えば、歴史カルタ、食べ物カルタなど分けてつくることも考えられます。集まった資源の選別方法や、テーマをどの段階でどう設定していくかが重要です。

松井委員 カルタづくりについては、テーマをこちらから設定せずに、それぞれの団体で得意分野のものをどんどん作っていただいても良いと思います。

高木部会長 最初はカルタの形式にとらわれずに資源のカードづくりのような形から入っても良いと思います。マップづくりも地域やテーマの設定など、様々な段階がありそうです。

松井委員 “宝物”というテーマはやはり中心にあるべきです。

鈴木委員 何をつくるにしても、お金の問題は常につきまといます。

事務局 行政の予算を確保するには、あれもいい、これもいい、こういうやり方もあるということではなく、最終的な見せ方や成果物の形がはっきりしている方が良いです。最終的には中学校区に1つのカルタづくりを目指すというような形になるかと思います。年度毎の実行計画も踏まえたスケジュールや担い手などまで、踏まえた提案が検討できると良いと思います。

渡辺委員 一人でも多く、様々な人に参加してもらいたいです。最初の募集の段階ではできるだけ広い形の方が良いと思います。

事務局 そこから、どれが良いかと選んでいく過程もコミュニティづくりになると思います。

松井委員 この宮崎台小学校の子どもたちがつくったカルタはすばらしいです。

鈴木委員 「むしたちが はなのみつを すいにきた」なんてそのままですが、とても良い感性です。大人ではなかなかこうはいきません。

松井委員 「レモングラス 風にふかれて いいにおい」「しゃぼん草 あわがモコモコ できたよ」「みのってる グミの実 おいしそう」など本当に良いですね。よく観察しています。

河井委員 授業で学んだことが本当に素直に表現されています。

高木部会長 「宮前区の宝カルタ」をつくらうということです。「再発見」というテーマもありましたので、埋もれてしまった地域の資源をもう一度見直す。このあたりがキーワードになると思います。

恒川委員 こどもから大人まで、参加をどうするか。カルタやマップは一つの形ですが、最初は「足元に何がある？」という呼びかけをして、推薦する地域の資源をどんどん出してもらいたいです。

鈴木委員 子どもの方があつと驚く、地域の資源を出してくれることがあります。

恒川委員 無形の資源もどんどん出てきてほしいです。

松井委員 人が好き、緑が好き、まちがすきという宮前区のスローガンがあります。ここから取り上げてもおもしろくなりそうです。

恒川委員 転出入が多いという宮前区で、「宮前区は良いまちだった」と思ってもらうためにも、子どもたちの参加を重視したいです。

高木部会長 最初はどんどん資源を出してもらって、札をつくっていき、それが集まった中から淘汰されていって、中学校区くらいの地域で一つのカルタができる。さらにその中から選ばれたものが、区のカルタになる。段階を踏んで進めるとよさそうです。

松井委員 この宮崎台小学校の子どもたちのつくったものを見ると、本当によい感性で、よく観察し、

自由に、そして簡単につくっていると感じます。マップづくりでまち歩きしながら、気になったところを写真にとって、地図に落とすというような形にすると、なかなかこうはすぐにはたくさん出てこないのかなと思いました。カルタづくりは子どもたちにとっても、より入りやすい、参加しやすい手法だと思います。

河井委員 作成前に、野川カルタを紹介し、みんなもつくってくれたら、発表できる場をつくるよと呼びかけたら、生徒も非常にのって、一生懸命やってくれたと聞いています。

松井委員 自然と5・7・5になっている文字札が多いですね。俳句や短歌にもつながっていきそうです。

コンサルタント 今回お持ちいただいたのは一学年分のものでしょうか？

河井委員 ニクラス分のものです。

渡辺委員 実際の自然を観察しながら、つくったことも本当によく現れています。

高木部会長 このカルタは緑がテーマになっていますが、今度は歴史文化をテーマにつくって、石碑や庚申塚なども題材として取り上げてつくることも可能だと思います。地域にある宝物の再発見につながりたいです。

河井委員 学校にとっても、歴史文化資源を発見するのは社会科であり、文章をつくるのは国語科であり、絵や札のデザインをするのは美術科、植物や生物を観察するのは理科など、様々な科目に総合的に取り組むことができます。

恒川委員 まち歩きをしていると、これまで知らなかった資源の発見が本当にたくさんあります。菅生の森で育てている団栗を他の自治体にあげていることなどもつい最近まで知りませんでした。

鈴木委員 上作に一本杉の碑があります。文化協会の小倉会長が地域の歴史を書いている本にも載っています。みなさんが知らない資源もたくさんあります。

河合委員 カルタで資源を取り上げることにより、その資源を新しく知る人が増える形につながりたいです。呼びかけ方ですが、中学校の文化祭などは地域の市民参加を求めている方向性がありますので、区民会議も参加してカルタの札を募集すれば、結構な数が集まるのではないかと思います。

高木部会長 最初の発信、呼びかけをどこにどのように行うかは重要です。

鈴木委員 集まってきたものをどうやって選ぶかということも重要です。

コンサルタント お話を聞いていて、やはりカルタづくりは、入りやすく、書式が統一されるという利点があると思いました。異なる団体が異なるテーマでつくったものでも、組み合わせやすいです。マップづくりとなると、テーマや地域の取り上げかたによって、組み合わせもなかなか簡単にはいかないケースも考えられます。また、カルタづくりは「これはぼくがつくったところ」というのが、より見えやすいと思います。最終成果物の形がよりはっきりするという点でも、まず最初のアプローチや呼びかけとしては、カルタづくりが良いのかなと感じました。

河井委員 私も今回、ちょっと働きかけただけで、こんなにすばらしい札がたくさん集まるとは思いませんでした。この中から何枚か選べといわれただけで、悩んでしまいそうです。

事務局 まず、カルタづくりに8中学校区毎に必ず取り組む。そしてオプション的に、例えばカルタで取り上げられた資源を、選ばれなかった札も含めて、マップに落としていくというような形でも良いかと思います。

コンサルタント 集まったカルタをテーマ毎に再分類し、それをマップにしていくこともできそうです。

恒川委員 私は、マップはぜひつくりたいと考えています。ただ手順として、最初はまずカードづくりから。そしてそこからマップへも発展していけると良いと思います。団塊の世代や高齢者の散歩に役立つようなマップをつくりたいです。

鈴木委員 どのくらい作品が集まるかはやってみないとわからない面がありますが、作品を見せる場というものも工夫したいところです。

高木部会長 8地区(8中学校区)という表現がもっと早い段階から資料に出てきても良いです。また、カルタづくりの部分ももっと強調しても良いと思います。

河井委員 カルタづくりの人材集めについてももう少し触れたいところです。

松井委員 参加者ではなくて、世話役ですね。平瀬川のマップを元にしたウォーキングを行う中で、カルタづくりの担い手募集も意識して呼びかけていきたいと思います。

鈴木委員 どこから声をかけていくかを戦略的によく検討しておく必要があると思います。

高木部会長 最初の声かけは8地区に平等に行うべきだと思います。ただ、実際に取り組む段階では、地域によって温度差が出てきてしまうのはやむをえないと思います。

事務局 地区ごとに実行委員会を立ち上げていく必要があると思います。例えば、宮前平中学校区の委員長に河井委員、平中学校区の委員長に高木部会長というように、区民会議委員の方々にも、これまでの検討経緯や出身団体での活動実績も踏まえて、関わっていただけると良いなというイメージを勝手ながら持っていました。資料にも示したように、実施主体の核が必要で、そこから声掛けをしていく。グリーンフォーラムや歴史ガイド活動をしているの方々を中心にお願いができればと思います。

恒川委員 歴史ガイド活動の方々も良いと思いますが、あまり一分野に偏らないような配慮も必要です。子どもたちの発想を大切にしながら、参加する子どもたちへの良いアドバイザーになっていただければと思います。

事務局 子どもたちにうまく関わってもらえれば、その保護者も巻き込むことができます。

高木部会長 その為にも発表の場などもうまくつくって、楽しさや、やりがいをつくっていきたいです。

松井委員 子どもの発表というのは良い手法です。先週日曜の七夕サミットでも子どもたちの発表にはたくさんの保護者が来ていました。

恒川委員 おじいちゃん、おばあちゃんたちも喜んでいます。

事務局 平成24年度の区政30周年に向けてもぜひ動きをつくっていただきたい思いがあります。

高木部会長 提言が今年度末と考えると、実はもうあまり時間がありません。

事務局 2012年の秋口には成果物ができている必要があります。

鈴木委員 私たちの区民会議委員としての任期は切れてしまっていますね。

渡辺委員 ただ、私たちも提案だけして言いつばなしではなく、実行部隊としてある程度関わっていかなければならないと感じています。

高木部会長 むしろ委員を退いてからが大変かもしれませんね。

鈴木委員 区政30周年への動きをつくっていくというのはとてもよい目標設定だと思います。私たちの区民会議委員としての任期内に、実現への道筋はつくっておきたいところです。

事務局 行政の方も異動があつて、人が変わってしまうかもしれませんが、道筋はしっかりつくりたいです。野川かるたの事例でも発案から完成まで3年かかったということですので、のんびりしている時間はありません。

恒川委員 8地区一斉に取り組むのは難しいのではないのでしょうか。

高木部会長 来年度には取り組みを始めないと間に合いませんね。区政30周年の年に各地区で作成され、磨き上げられたカルタが出てきて、全区のカルタを選ぶような流れにもっていきたいです。やはり実行委員会組織をすぐに立ち上げることが必要でしょうか。

事務局 区政30周年に向けた事業として、提案の段階から位置づけてはどうでしょうか。

高木部会長 30周年記念カルタ、30周年〇〇委員会など立ち上げて良いと思います。

恒川委員 30周年の目玉にもなりうる事業だと思います。

事務局 そのためには、タイムスケジュールや実施主体なども踏まえた提案を今年度中にまとめる必要があります。

松井委員 プログラミングですね。

事務局 そうです。そのプログラミングの検討を9～10月の部会で進められると良いなと思います。

高木部会長 私個人としては、宮前区のマスコットというのもぜひ実現させたいという思いがあります。

事務局 市制80周年でつくられた「かわさきカルタ」が現在どのような形で活用されているかわかりませんが、松井委員がご指摘されたように、カルタをつくるだけでなく、その後の活用をどのようにしていくかは非常に重要だと感じています。

鈴木委員 かるた大会の開催などということでしょうか。

事務局 前回紹介した「上毛かるた」はその点が徹底されていきました。授業や地域対抗のイベントなどに取り入れられ、小学校時代を群馬県で過ごした人は誰でも全ての札を誦んでいるというほどです。

鈴木委員 カルタの場合、絵札をどうするかということもポイントになりそうです。

高木部会長 最終的な成果物としてのカルタは見栄えも必要ですから、素人ではなく、プロの人に絵柄を頼むことが必要となるかもしれません。

松井委員 平瀬川の歌は菅生小学校の子どもは全員歌えます。カルタも同じようになっていったらおもしろいです。

高木部会長 そのためには、使い方まで突っ込んだ提案が必要です。

鈴木委員 つくった後の方が大事なのかもしれませんね。

松井委員 つくる段階で、地域への思いをうまく吸い上げ、中身がしっかりしたものをつくることであれば、活用への動きは自然とつくれると思います。

河井委員 上毛カルタは、小学校の授業でも取り上げられているということが非常に大きいと思います。中学校になると百人一首になってしまいます。

事務局 つくる過程が大事だという話がこれまでの部会で常に出ていましたが、その後の活用の過程も大事だということです。

高木部会長 教育現場で利用してもらえるようなものをつくりたいです。

松井委員 やはり小学校での活用です。先日も犬蔵中の先生と話していたのですが、中学になると受験や部活動のウェイトが大きくなり、なかなか地域の活動を新たに組み込んでいくのは難しい面があるとのことでした。

高木部会長 最終的なターゲットも見えてきましたね。これまでできるだけ広くということでしたが、やはり小学校で使ってもらうことが第一目標になりそうです。中身もそれに合わせたものをつくっていく必要があります。

事務局 つくったものを教育現場で活用してもらうには、つくる過程から教育現場を巻き込み、子どもたちに関わってもらう必要があります。自分たちも加わった、つくったんだという意識をもってもらえる形にしたいです。

鈴木委員 上毛カルタは群馬県の文化協会がかなり関わっているようですね。

松井委員 宮前区でも文化協会も関わってもらいたいですね。

事務局 かつぱ一くが開設された時に、施設の愛称とキャラクターが公募で決定されましたが、選ばれた子どもというのは、大きくなってもそのことをずっと覚えていると思います。カルタをつくるとき

にも自分の札が選ばれば、そのことはずっと覚えていてくれると思います。

渡辺委員 群馬県で育った子どもは、上毛カルタの内容は群馬県を離れても、大きくなっても忘れることはないと思います。そこから郷土愛も生まれてくると思います。

高木部会長 公園部会では、先日横浜市のプレーパークに視察に行き、チラシなどの資料ももらってきたのですが、この部会の提案に際しても、呼びかけのチラシなどのたたき台などもつくっておいたほうが良いと思います。カルタ大会のイメージはみなさんどんなものをおもちでしょうか。

事務局 一つとして、スポーツセンターの体育館を会場としたような大会のイメージがあると思います。

恒川委員 こどもの国で5月5日のこどもの日に屋外で大きなカルタをやっていて、子どもたちがすごく楽しんでいました。そうした形式も良いと思います。

高木部会長 学校対抗も考えられますし、地区対抗も考えられます。大会のつくり方もいろいろ考えられそうです。それも実行委員会をつくるような形がおもしろいし、良いアイデアが出そうです。別の地区のカルタをとらせるやり方も考えられます。

河井委員 屋外でやるのも楽しそうですね。

コンサルタント 上毛カルタでは競技ルールも明文化されて、入っていましたね。毎年大会が行われているようです。配置されてから、見て覚える時間が5分与えられていたり、札によって得点が違うなど非常に細かいルールが設定されていました。

高木部会長 地区大会から、地区対抗、そして全区的に盛り上げていきたいです。

鈴木委員 夢のある提案になりそうです。

恒川委員 地域教育会議は中学校区単位ですし、ぜひ声をかけたいところです。

高木部会長 ただ、なかなか現状ではそういう体制になっていない現実があります。

松井委員 私たちの活動でも、連携・協賛団体とせずと地域教育会議を連ねていましたが、いくら声をかけても反応が無いので、今年から名前を消そうという話になっています。元々の主旨はこうした活動にも取り組みたいということのようなのですが、、、、

高木部会長 最初の呼びかけをどのような形でしていくのかの計画も必要ですね。

松井委員 野川カルタや上毛カルタの事例も紹介しながら、提案の趣旨や内容、目的をうまく伝えるような資料の作成ができると良いです。

高木部会長 そこに区政30周年を記念して、作成したいということも掲載していく。

事務局 そうですね。その辺りまで提案段階で踏み込めると良いです。スケジュールや担い手、趣旨説明資料までできていれば、取組へもよりスムーズに移行できると思います。

松井委員 「夢のあることを言っているね」だけで終わってしまっては困ります。

河井委員 一中学校区には何校かずつ小学校がありますが、そのへんの分担もうまく考えたいです。まち歩きは学校の授業でもありますので、そことうまくつなげていきたいです。

事務局 区内8中学校に対して、17小学校があります。

渡辺委員 中学校によっては、高津区や多摩区の小学校区からも多くの生徒が来ています。

河井委員 インターネットなどで広く募集するような形も導入するのでしょうか。

高木部会長 あくまで子どもたちがカルタづくりに取り組む中で、保護者も巻き込んでいく形が良いのではないのでしょうか。

恒川委員 総合学習で取り入れるなら早く学校に働きかける必要があります。

松井委員 校長会で簡単にお話したことはありますが、具体的にはまだまだこれからです。平瀬川では「マップづくりの目標」ということで、団体の設立趣旨やセールスポイント、マップの目指すところ

や進め方などを文章にまとめた資料を作成しました。マップづくりに先立って、話し合っただけの資料です。この資料があったことにより、学校や地域への説明もスムーズにでき、思いを伝えることができました。(詳細別紙参照) 同じような整理がカルタづくりに先立ってでもできると良いです。

コンサルタント これまでの議論の確認ですが、まずカルタづくりを入り口として、ワークショップ形式、中学校区単位、実行委員会制で取り組みを起こしていく。その担い手、実現へのスケジュールなどにまで触れた計画づくりを目指す。できあがるカルタの教育現場としての小学校での活用を目指し、小学校の子供たちをメインターゲットに進めていくということ、区政 30 周年に向けてつくっていく。また以上のカルタづくりや資源発見の目的や進め方、ことなどをわかりやすく伝えることができる資料も作成していくということですね。

渡辺委員 区民会議委員は、提案後も担い手としても積極的に関わっていくということもあります。

高木部会長 「ときめき再発見」の部分や「宮前区の顔づくり」の趣旨もうまく伝えたいですね。

永野委員 カルタづくりの段階、カルタ活用の段階や区の顔にしていく段階など、それぞれの段階の担い手やしくみ考える必要があると思います。これまで地域に関わっていない人をうまく巻き込みたいところです。趣旨をわかりやすく伝える資料ができれば、各活動の現場に伝えて、既存のイベントなどとも連携していけると良いと思います。わかりやすくシンプルに伝えることが大切です。

コンサルタント 来月に予定されている区民会議全体会では、今回の資料に今日の議論で出ました、教育現場での活用を目指すこと、小学生をメインターゲットにすること、区政 30 周年の記念事業の一つとしての実施を目指すこと、各地区での実行委員会の立ち上げ、などを追記して部会経過報告をし、区民会議全体のご意見を伺う。9 月、10 月の部会では、スケジュールや担い手、趣旨説明資料の内容などのより具体的な検討に入っていくということではいかがでしょうか。

永野委員 区民を総動員できるような形を考えたいですね。

事務局 各地区の実行委員は 10 名前後くらいでしょうか。ここはあまり大きく広げすぎない方が良いでしょう。実際の取組実施に際しては小学校や地域の諸団体に声をかけ、地域一体で取り組む。実行委員会の構成メンバーは各団体の代表に出席していただくような形もあると思います。

高木部会長 各地域で一本釣りしていかないと難しい面があると思います。

永野委員 自治会のある部門や特定の団体だけに投げてしまうような形になってしまっただけでは良くないと思います。今回のようないろいろな人を集めたい場合は、このやり方だと先でしぼんでしまう恐れがあります。多種多様な人が集まる実行委員会にしたいです。

高木部会長 フットワークの良い実行委員会にする必要があります。区政 30 周年を目指すなら、話し合っただけだけでなく、どんどんアクションを起こしていかなければなりません。その為にも、主旨や経緯がよくわかっているこの部会のメンバーの方々にはどんどん関わっていただきたいです。

松井委員 既に地域で活動をされていて、地域や学校での人望や人とのつながりを持っている人に関わっていただく必要があります。今回お持ちいただいた宮崎台小学校の作品も河井委員が関わったからこそ短期間でできたことだと思います。

永野委員 こちらから積極的に説明について働きかけていく必要があると思います。

高木部会長 野川かるたという良い事例がすでにあるのは大きいですね。

河井委員 学校単位で関わってもらうのは難しいかもしれませんが、中学生にも参加してもらいたいです。映像コンクールでは、最初に撮り方などの講習もして、中学生も積極的に参加してくれています。実行委員会にも携わってもらうような形も良いとおもいます。すごく大きな思い出となると思います。

松井委員 映像コンクールでは、学校の先生が負担かかかるとはではなく、地域に世話役がいて、指導し

てくれるからできるということを言っていた先生がいました。いくら良い企画でも、それがないと今の先生は本当にいろいろな業務を抱えているようです。

永野委員 予算化による財源の確保も重要です。防犯の地域安全マップづくりでも、講師謝礼や必要な文具代など最低限必要な金額の予算化がしっかりされることで、取り組みやすくなっています。

高木部会長 募集の際の書式もある程度統一する必要があります。

事務局 最終成果物の書式やサイズ等については、先進事例としてある野川カルタに合わせていく以外にないと思います。

松井委員 最終成果物はそうですが、募集の際はある程度大きい方が子どもたちも描きやすいので、ハガキ大くらいが適当でしょうか？

事務局 最終的な絵札の描き手については、野川の際につかったイラストレーターの方はどうでしょうか？

河井委員 そうなると全地域が同じタッチになってしまいますね。それもおもしろくないような気がします。募集の際のサイズの話ですが、ハガキ大くらいにすれば、あつまった作品をラミネートして配布したり、展示などもしやすいと思います。

事務局 観光大使はどのようなイメージでしょうか？

永野委員 ミニコミ誌に記事を書いてもらったり、ボランティアガイド役やレポーターのようなイメージでしょうか。

河井委員 県単位だと著名人がレポートなどする例もありますが、区レベルでは難しいですね。

永野委員 できあがったカルタもどんどん宣伝してもらいたいです。

事務局 パブリシティで取り上げてもらえるような働きかけは今も行っています。どのような場で宣伝するかというイメージがまだありません。恒常的な観光大使となると少し難しいかなと感じています。

松井委員 宣伝するものができてから考えることで、何も無い段階から観光大使を考えるのは難しいかなと思います。

高木部会長 できあがったカルタをつかっての検定などもおもしろいかもしれません。

鈴木委員 いずれにしてもちょっと先の話でしょうか。

永野委員 ウォーキングの際のガイド役なども考えられないでしょうか。

恒川委員 観光大使というよりは、まず資源やマップの案内役でしょうか。まちあるきの際に地元の人に説明してもらおうと、やっぱり違います。キャラクター、マスコットづくりは私も将来的には決めたいと思っています。かっぱーくのかっちゃんも宮前区全体にはあまり知られていません。

高木部会長 あそこだけのキャラクターとしてしまったこともあり、あまり知られていません。カップケーキが出てくるときは、全市的にも紹介されているようですが。

事務局 宮前区といえば・・・というイメージがまだ無い中で、区のキャラクターをつくるというのはまだ難しいかなと思います。カルタづくりなどを通して、その辺りのイメージができてくればつくっても良いと思います。

高木部会長 もちろんそうなのですが、夢としてはもっておきたい。文章としてはいれておきたいです。キティちゃんのご当地キティちゃんというのがあり、様々な地域の特産品などをもじったグッズがありますね。

事務局 まず宮前区のキャラクターのモチーフを見つけなければなりません。現時点では共通イメージが無い状況です。

鈴木委員 それは区政40周年のころでしょうか？

高木部会長 カルタづくりや普及の段階で、出てくるものもあると思います。

松井委員 大勢が地域を理解してくると、自然と出てくるでしょうね。

事務局 昔ドリフの全員集合で、志村けんが「東村山1丁目」と唄っていた。どんな地域か知らないけれどそれだけで有名になっていました。宮前区には実は芸能人がたくさん住んでいて、知り合いの方もいると思いますので、そういう方々に何かの時にちょっと話してくださいとお願いするだけでも、違って来るかと思います。カルタができれば、差し上げて、何かの時には宣伝してくださいとお願いしてみたいと思います。例えば「宮前メロンは本当においしい」と一言 TV で言うだけで本当に違ってきます。

高木部会長 先日 TV でわがままイチゴが紹介された後はすごい反響があったようです。

鈴木委員 メロンのキャラクターもかわいくなりそうですね。ミュージアのキャラクター、ミュートンは今5周年ということで、ギターを持っているストラップなどが販売されました。

高木部会長 あるための道しるべが少ない。整備された歴史資源の案内板や坂の名前を記した碑などが古くなってしまっているという意見も出ていました。このあたりもうまく進めていきたいです。

河井委員 今、メロンはどんどんキウイに変わってきてしまっています。

永野委員 昔はメロン農家が8軒あったのが、今は2軒ほどになってしまったという話も聞きました。

恒川委員 学校への呼びかけはできるだけ早く行ったほうが良いと思います。学校は行事スケジュールがいっぱいなので本当に早く決まってしまうと思います。

事務局 本来は全体会にかけるまでに、部会だけで動いてしまうことはできないのですが、こども支援室などを通じての内々の呼びかけは早めに行い、感触をつかんでおきたいと思います。

(2) その他

■次回部会日程について

- ・8月31日(月)18:00～に開催することとした。

■第2回宮前区区民会議の開催について

- ・開催場所や交通手段について説明、出欠予定や予定交通手段等の事前提出のお願いをした。